

# 教科等研究会（小学校家庭部会）

## 令和5年度 研究活動のまとめ

### 1 研究テーマ

くらしをみつめ、家族の一員として  
よりよい生活を創り出す児童の育成  
～児童が達成感をもち、家庭での実践につながる授業づくり～

### 2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
6/15	9名	益城中央小	8/22	10名	益城中央小 実技研	8/22	13名	益城中央小 実践発表会 (中学校部会も参加)	1/30	10名	小坂小 吉富直哉 教諭

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の内容

##### ア 実技研

「株式会社 山都でしか」の下田円美さんに来ていただき、「SDGs と食育講話」と「発酵ランチ教室」を行った。新しい教科書には SDGs の特設があり、この視点を意識しながら、家庭科授業を考えることは必要なことである。給食の廃棄率の問題も取り上げられ、わたしたち自身も身近な問題として考えることができた。後半は、山都の野菜等を使い廃棄率をできるだけ減らし、発酵ランチの調理も行った。

##### イ 実践発表会

各会員よりテーマに沿った授業実践の発表を行った。児童が達成感を持ち家庭での実践につながるような手立てや評価の工夫について交流することができた。ICT の活用で評価や技能のサポートが効果的にできることが確認できた。

##### ウ 授業研究会

題材名 6年「あなたは家庭や地域の宝物」

5、6年最後の単元である。今までの学習を生かすとともに「協力」の視点から家族や地域と自分がどのように関わっているのかを考え、さらによりよい関わり方を考えていけるように授業構想を行った。「卒業」を軸としていろいろな教科との関連も図りながら「家庭や家族の一員として」自分ができることを主体的に学習ができるよう単元構想されていた。

#### (2) 成果と課題

##### ア 実技研

○アフターコロナということで、実習を取り入れることができ、楽しく家庭科の研修ができたことはよかった。「未来の子供たちがくらしにくくならないようにわたしたちが工夫していかななくてはならない」「食のこと、環境のこと、健康のこと様々なところを考えることができた」などの感想があった。家庭科をいろいろな視点から考えることの大切さを共有できた。

●日程等を早めに確定し、8月の前半に研修を打つことができれば全員の参加が可能だと感じた。

##### イ 実践発表会

○これからの授業につながる機会となった。他教科との関連や総合的な学習の時間と関連させていくことの大切さ、保護者や地域の方も巻き込みながら授業を創ることのおもしろさも感じることもできた。

●家庭実践へつながる教科であるが、家庭背景や家庭・家族をどのように扱うかで授業づくりが変化する。一人一人の学びをどのように保障するか工夫していく必要がある。

##### ウ 小中合同授業研究会

○アンケートによる実態把握と課題設定、イメージマップによる生活を見つめる活動、家族からの手紙による実感を伴った計画など学習活動が充実しており、みんなが参加できる、みんなが書けるすばらしい授業であった。家族や家庭に踏み込み、子供と保護者の実態を把握し授業づくりを行ったところが勉強になった。

○課題をもとに、「家族を助けてい」という思いなどが多く出てきたことで、「協力」の視点もふまえて自分にできることを考える児童が多かった。

- 子供たちの自然なつぶやきのどこを問い返していくといいのか考えておくことで、より深まりが見られ、そこからめあてや課題設定につなげることができると思った。
- 家庭状況も多様化している中で、アンケートの取り方、取り上げ方は検討していく必要がある。

#### 4 実践事例

##### (1) 授業の概要

題材名 6年「あなたは家庭や地域の宝物」(東京書籍) 授業者 吉富 直哉 教諭

本題材は、「協力」という視点で家族や地域の人々との関わりを工夫することを通して、将来にわたって地域の一員としてできることを考え、安全かつ快適で、豊かな家庭生活を工夫していくことへつながっていく。最後の単元であるため、「卒業」を軸にして他教科との関連も図ることができる。役に立っているという感覚や地域とのつながりが感じられていない子供たちの実態から、まずは家族の一員として考えていき、それを生かして地域について考えていくようなたんげんこうせいになっていた。子供たちの実態に合わせてイメージマップにより家族構成と役割を振り返らせた。アンケートや家族からの手紙はとても効果的であった。中学校との系統や扱い方のちがいが共有できた。家族についてあえて考えさせることで、当たり前前の家族について見つめいろんな家族の形態があることにも目を向けていくことができる。

##### (2) 学習構想案

### 第6学年 家庭科 学習構想案

日 時 令和6年1月30日(火) 第5校時

場 所 6年1組教室

指導者 教諭 吉富 直哉

#### 1 単元構想

単元名	あなたは家庭や地域の宝物		
単元の目標	<p>家族や地域の人々との関わりについて、家族や地域の人々との「協力」などの視点から、課題をもって、基礎的・基本的な知識を身につけ、よりよい関わりについて考え、工夫することができる。</p> <p>(1) 家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解している。</p> <p>(2) 家族や地域の人々との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、さまざまな解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身につけている。</p> <p>(3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、家族や地域の人々との関わりについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、ふり返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。</p>		
単元の評価規準	<p>知識・技能</p> <p>① 家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解している。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>① 家族や地域の人々とのよりよい関わりについて問題を見いだして課題を設定している。</p> <p>② 家族や地域の人々とのよりよい関わりについてさまざまな解決方法を考え、工夫している。</p> <p>③ 家族や地域の人々とのよりよい関わりについて、実践を評価したり、改善したりしている。</p> <p>④ 家族や地域の人々とのよりよい関わりについて、課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>① 家族の一員として、家族や地域の人々との関わりについて、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。</p> <p>② 家族の一員として、家族や地域の人々との関わりについて、課題解決に向けた一連の活動をふり返って改善しようとしている。</p> <p>③ 家族の一員として、生活をよりよくしようと、家族や地域の人々との関わりについて、工夫し、実践しようとしている。</p>
単元終了時の児童の姿 (単元のゴールの姿・期待される姿)			
「協力」という見方・考え方で、家族や地域の人々との関わりを工夫することを通して、将来にわたって家族や地域の一員としてできることを考え、安全かつ快適で豊かな家庭生活を工夫することができる児童			
単元を通した学習課題 (単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
家族や地域の人々との関わりについて、家族や地域の人々との「協力」などの視点から、課題をもって、基礎的・基本的な知識を身につけ、よりよい関わりについて考え、工夫しよう。		「協力」という視点で、家族や地域の人々との関わりを工夫することを通して、将来にわたって地域の一員としてできることを考え、安全かつ快適で、豊かな家庭生活を工夫すること。	

指導計画と評価計画（ 時間取扱い 本時 1 / 3 ）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
家族との時間を見つめて、工夫しよう	1 (本時)	○「協力」などの視点から、家族の一員として自分の生活を見直し、どのように関わっているかを考える。 ○家庭をよりよくする工夫を考え、2年間の学習を生かして、実践計画を立てる。	【思①】家族や地域の人々とのよりよい関わりについて問題を見いだして課題を設定している。 ★【思②】家族や地域の人々とのよりよい関わりについてさまざまな解決方法を考え、工夫している。
地域のためにできることを考えよう	1	○「協力」などの視点から、自分の生活と地域の人々との関わりについて考える。 ○地域をよりよくする工夫を考え、2年間の学習を生かして、実践計画を立てる。	【知①】家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解している。 【主①】家族の一員として、家族や地域の人々との関わりについて、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。
実践したことをまとめよう	1	○発表交流会をして、実践について評価・改善をする。 ○友だちの工夫やアドバイスを参考に家庭や地域をよりよくしていくために、地域の一員としてできることを考える。	【思③】家族や地域の人々とのよりよい関わりについて、実践を評価したり、改善したりしている。 ★【思④】家族や地域の人々とのよりよい関わりについての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。

## 2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)			
「A 家族・家庭生活」 (3) 「家族や地域の人々との関わり」ア(イ)イ			
教材・題材の価値			
毎日を安全かつ快適に生活するために、課題をもって、地域の人々との関わりや協力などに関する基礎的・基本的な知識を身につけるとともに、家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考え、工夫する力、実践的な態度を養うことに適している。			
本単元における系統			
第5学年 私の生活、大発見	第5学年 気持ちがつながる 家族の時間	第6学年 見つけてみよう 生活時間	第6学年 あなたは家庭や地域の宝物
児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)			
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況 (29人)			
調査内容	十分(人)	概ね(人)	
【衣】目的に合った製作計画を考え、製作を工夫することができる。	10	19	
【食】栄養のバランスを考えた1食分の献立を工夫することができる。	14	15	
【住】夏や冬を快適に過ごすための住まい方や着方について考え、工夫することができる。	17	12	
■本単元の学習に関する意識の状況			
調査内容	肯定的(人)	否定的(人)	
家庭科の学習は好きですか。	23	6	
あなたは家庭で役に立っていると思いますか。	22	7	
思う：手伝いをしている(料理、洗濯、掃除)	思わない：たまにしか手伝いをしていないから、学んでも実践していないから		
住んでいる地域の人との関わりはありますか。	4	25	
ある：リサイクル活動、地域のイベント、困った時に助けてもらっている	小坂小の一員として役に立っていると思いますか。		
小坂小の一員として役に立っていると思いますか。	14	15	
思う：委員会活動、分からないところを教えているから	思わない：何もしていないから、みんなのことを考えていないから		
■考察			
(資質・能力に関して) 第5学年からの家庭科の学習において、衣・食・住のそれぞれの視点から知識や技能を身に付け、実習などを通して学んでいる。			
(学びに関して) 意識調査の結果、家庭で自分の役割があり、きちんと果たしていると思っている児童が多いことに対して、地域とのつながりや学校での役割を果たしている児童が少ないことが分かった。しかし、普段当たり前にしている挨拶や日常の会話でも関わりあっていることも本単元で押さえる必要がある。家庭科の学習やその他の教科とも関連付けて、小学校を卒業することを意識しながら、家庭や地域、学校で自分にできることは何かを考えていく必要がある。			

## 3 指導に当たっての留意点

- 他教科(国語科や総合的な学習の時間等)との関連を積極的に図り、児童が「卒業」を意識し、主体的に学習できるようにする。
- 導入では、児童のアンケートの結果から数値や記述をいくつか取り上げ、家庭科の学習や家庭生活、地域との関わりを意識させ、本時の内容に焦点化する。
- 地域の人との関わりや小坂小の一員として役に立っていると思っている児童が少ないため、地域の方と関わっている様子やこれまでの学校での活動の様子の写真等を提示し、児童が思い出すことができるようにする。

#### 4 本時の学習

##### (1) 目標

家庭生活の課題に気づき、解決方法を話し合うことを通して、家庭をよりよくする工夫をすることができる。

##### (2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	10分	<p><b>1 見つめよう</b></p> <p>①家族のことを見つめる ◇家族には毎日ご飯を作ってもらっている。 ◇悩んだ時に相談にのってくれる存在 ◇時々自分も皿洗いの手伝いをしている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">【めあて】自分の生活を見つめ、家族のためにできることを考えよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">【学習課題】 「協力」の視点から、自分の生活は家族とどのように関わっているのだろうか。</div> <p>②これまでの家庭科の学習をふりかえる ◇調理をした。 ◇ミシンを使ってエプロンを作った。 ◇家族との時間を考えた。 ◇夏や冬の暮らし方の工夫を調べた。</p>	<p>○事前アンケートの結果から、家庭でしている手伝いや家族との関わり提示し、自分の家庭での生活を見つめることができるようにする。 ○本時は「家族」に焦点を当ててできることを考えていけるようにする。</p> <p>○2年間の家庭科の学習では、衣食住の分野で様々なことを学んでいることをふりかえることができるようにする。</p>
展開	30分	<p><b>2 自分の生活をふりかえる</b></p> <p>①家庭のことを考える ◇朝ごはんの準備が大変そう。 ◇洗濯物を畳むのに時間がかかっている。 ◇家事が忙しそうで、ゆっくり過ごしていない。 ◇自分が気づいていないことでも家族が協力してほしいと思っていることがある。</p> <p>②それぞれの課題を解決するためにグループで話し合い、自分にできることを見つけ、実践計画を立てる。 ◇健康な朝ごはんを自分が考えて作る。 ◇洗濯物を畳む手伝いをしたい。 ◇自分のために頑張っている親に感謝の気持ちを伝えたい。</p> <p>③全体で共有する</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【期待される学びの姿】</p> <p>● 家族の一員として、家族との関わりについて考え、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとする姿</p> </div>	<p>○家庭での課題を考えることで、「協力」という視点から児童がよりよい家庭生活にしていくことを意識できるようにする。 ○保護者からのアンケートを提示し、保護者の視点から協力してほしいことなどを踏まえて実践を考えることができるようにする。</p> <p>○2年間の学習を生かして、課題を解決するためにできることはないかを考えさせ、実践したいことを決めることができるようにする。 ○これまで実践していることをよりよくすることや対話の中から新たな実践を考えていくことができるようにする。 ○対話的な場面を通して、自分だけでは気づきにくい課題や工夫にも目を向けられるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【具体的評価規準】観点</p> <p>○家族とのよりよい関わりについてさまざまな解決方法を考え、工夫している。 (方法・ワークシート)</p> </div> <p>【到達していない児童への手立て】 全体で共有することで、家族のために自分にできそうなことは何かを考えることができるようにする。</p>
終末	5分	<p><b>3 本時の振り返りをする</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【まとめ】 家族のためにできることはたくさんあり、学んだことを生かして家族の一員として協力していくことが大切である。</p> </div> <p>①本時の感想を書く ◇家族がたくさん協力していることに気づいた。 ◇家庭科の学習を生かして、家でも調理の計画を立てたい。</p>	<p>○自らの学びを調整したり、実践したりしたいことを整理し、一人一人の振り返りを具体的に行う。</p>